

## 内子座に広がる坂元裕二の世界 満島さんと森さんの朗読会

脚本家・坂元裕二さんの詠んだ言葉が女優・満島ひかりさんが読む「全国へゆこうか！朗読ジャーニー」「詠む読む」が11月28日、内子座で開かれました。同じく女優の森七菜さんも登場し、「不帰の初恋、海老名SA」を朗読。2人の演

技力で、観客を物語の世界へ引き込みました。朗読終了後の来場者と交流する時間では、森さんの初舞台が今回の朗読会だったことや、満島さんが森山未来さんの公演を見に内子座に来ていたことなどが明かされ、会場を沸かしていました。



会場を交えたトークを楽しむ森さん(右)と満島さん

## 見直そう、一人一人のライフスタイル 食品ロスを考える「内子発環境会議」

「第16回内子発環境会議」(同実行委員会主催、入江英昭会長)が11月30日、町民会館で開かれました。NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットの鬼沢良子さんが、「食品ロス削減〜私たちにできること〜」と題して登壇。食品ロスはSDGsの目

標「作る責任、使う責任」に該当する他、10月に「食品ロス削減推進法」が施行されたことで、関心が高まっている問題です。鬼沢さんは「賞味期限を理解することや、宴会時の『3010運動』を推進することで効果が期待できる」と呼び掛けました。



上\_骨折した足を毛布とガムテープで固定する方法を学ぶ参加者 下\_各地域の消防団も訓練を実施

## 大規模災害に備える防災訓練 自主防災組織など300人が参加

「令和元年度内子町防災訓練」は12月1日、小田地区などで行われ、消防署や消防団、小田地区自主防災組織など約300人が参加しました。午前8時に震度6弱の地震が発生したという想定で、情報伝達や消防団の広報などの訓練を行い、小田自治センターでは多数のけが人の発生を想定した、住民トリアージ訓練を実施しました。消防署員から「切羽詰まっ

た状況で、一人でも多くの人を守るための訓練」という説明があり、参加者は真剣な表情で重症度による色分けの方法、身近なものでする応急処置や担架づくりを学びました。内子地区では本庁舎の浸水を想定し、災害対策本部を分庁に移転する訓練を行いました。一連の訓練結果を検証し、内子町が作成している初動マニュアルなどに反映する予定です。

## 多角的に見る高畑誠一の生涯—— 特別企画展でシンポジウムを開催

内子自治センターの開館15周年を記念した特別企画展のシンポジウム「高畑誠一の軌跡を辿る」が12月8日、内子座で開かれました。会ではまず、作家・玉岡かおるさんが「国家を相手に商った男」と題して講演。高畑氏が鈴木商店ロンドン支店長だった時代に焦点をあて、その手腕や業績を顕彰しました。続いて内子高校の生徒13人が研究成果を発表し

ました。生徒たちは町内の親族や史家に聞き取り調査を行い、高畑氏の謙虚で誠実な人柄などを紹介。「自分たちも周りへの感謝を忘れず、長所を生かして社会に貢献したい」と結びました。その後、パネルディスカッションが行われ、高畑氏を育てた内子の教育、学生時代に培った人脈、経済界での活躍など、さまざまな側面からその人生を見つめ直しました。



表彰状を手にする会長の泉さん(中)、副会長の奥嶋さん(右)と中西さん

## 障がい者の社会参加に尽力 「でんでんむし」に会長表彰

「内子町精神保健ボランティアグループでんでんむし」(泉幸子会長、会員42人)がこのほど、愛媛県精神保健福祉会長表彰を受賞しました。同会は全ての障がい者の社会参加に協力することを目標に、毎月開催される「ふれあい会」に参

加している他、障がい者との交流会や講師を招いた学習会などの活動を続けています。泉会長は「長年の活動が評価されて、うれしい。これからも交流を楽しみながら、ワンチームで受賞に恥じない活動が続けた」と喜びを語りました。



上\_シンポジウムの様子 下\_パネリストの皆さん。右から宮瀬弘吉さん、野邑理栄子さん、玉岡かおるさん

## 観光振興のキーパーソンが講演 「酒蔵探訪まち旅シンポジウム」

多業種が連携した旅行商品開発を目指す「酒蔵探訪まち旅シンポジウム」が12月18日、内子自治センターで開かれました。講師は酒蔵ツーリズムのパイオニア・中村悦子さん。自身の経験や酒蔵の取り組みなどを紹介しながら、「他の業種とつなが

ることで、町の物語や魅力が広がる。それを観光客などに発信させる仕組みも大切」と説きました。町内で酒造業を営む3人を加えたパネルディスカッションも行われ、酒蔵を核にした「内子旅」の可能性や、多業種が連携する手法を模索しました。



「観光と酒造り」をテーマに話す中村さん(左)とパネリストの皆さん

## ふるさとの風景が育む豊かな心 小・中学生俳句大会の受賞作品

「第5回内子町小・中学生俳句大会」(内子町教育委員会主催)の表彰式が12月14日、内子自治センターで行われました。1123句の中から、最優秀賞8句、優秀賞38句、入選49句が選ばれました。

表彰後、それぞれの句の講評が行われ、選句者から「俳句は普段の生活から季節を見つけ出すことができる。今年も素晴らしい俳句にたくさん出会った」とのあいさつがありました。ここでは最優秀に輝いた子どもたちの俳句と感想、選句者の講評を紹介します。

### ◆内子町教育委員会選

#### 選句者の講評

どひようぎわぐつとこらえた夏の空

天神小3年 山田駿太さん



夏に相撲を頑張りました。俳句で賞がもらえてびっくりしました。来年も相撲と俳句を頑張って賞を取りたいです。

知清の子供相撲に出たの句でしょうか。追い詰められてもこらえる作者の姿が、頼もしく見えてきます。「夏の空」は太陽や入道雲を連想させ、夏のエネルギーを感じるいい季語だと思います。

つなぐ手も信じられない肝だめし

五十崎小6年 藤川 咲さん



とにかく怖かったという思いから詠みました。素直な気持ちを描いただけですが、賞をいただけて驚いています。

肝試しに行かれたのですね。友達の手さえも幽霊の手が変わっているのでは——。怖さがよく伝わってきます。肝試しが終われば、また手をつなぐ仲良しの二人。少し怖いけれど楽しい句です。

きりぎりす飛んでミクロの風を生む

五十崎中1年 鍛冶岡匡一郎さん



初めての最優秀賞で、うれしです。テニス部で応援しているときりぎりすを見つけ、その姿に自分を重ねました。

観察しての実景でしょうか。ミクロの風とは小さな風のこと。きりぎりすも小さな虫。そんな風を感じるいい感性で、小さな虫の動きを生き生きと描写した句です。目の置き所もいいです。

### ◆夏井いつき選

#### 夏井先生の講評

👑教育委員会選とダブル受賞👑

はがぜんぶとびだしそうどうんどうかい

天神小1年 石田龍輝さん



運動会の朝、緊張していた気持ちのまま俳句にしました。恥ずかしかったけれど、賞をもらえてうれしいです。

かけっこでしょうか。「はがぜんぶとびだしそう」なほど頑張った運動会。走った後、心臓がばくばくして、吐く息と一緒に歯まで飛び出してしまいそう。頑張った人だけが感じられる実感の一句。

プールで頑張って練習したときの気持ちです。いろんな俳句を作っている夏井先生に選ばれて、すごいと思いました。



息つぎができたらにじが見えるかな

内子小4年 豊島莉央さん

この夏一番の思い出です。家族の楽しい時間が、お父さんの骨折で一転。でも夏井先生に選ばれたので、よかったです。



「水しぶき」「青空」と気持ちいい言葉が続いた後の「骨折」にぎょっとします。楽しい水場でのひとときが一転、痛い経験に。見上げる「青空」が力強く、励ましてくれるようでもあります。

水しぶき青空骨折夏休み

五十崎小6年 片倉暖充さん

最後の大会が終わっても捨てられないシューズ。西日が差すのを見て、今までのことを思い出し、句にしました。



くたびれたバレーシューズに西日差す

五十崎中3年 名本ひなたさん

シューズは3年生のものでしょうか。跳ねて、滑って、たくたに使い込まれたシューズ。「西日差す」は陰影ある映像を描きつつ、作者の心情を表すようでもあります。引退の日までに刻む感情は充実か、悔しさか。